



NPO法人  
子ども家庭リソースセンター



# おたより



総会を終えて・・・P 1  
 カナダ訪問記・・・P 2  
 喪失体験をかかえる子どもたちへ・・・P 3  
 新しい出発によせて・・・P 4  
 「児童虐待予防への一石」・・・P 5  
 NP ファシリテーター交流・研修会をふりかえって・・・P 6  
 インフォメーション・・・P 7, 8



総会を終えて、2019 年度のリソースセンターとしての課題は・・・

～具体的な行動計画へ進むとき～

CFRC代表 福川 須美

今年の7月は曇りや雨の日が続き、気温も上がりませんでした。涼しくて助かりましたが、農産物は日照不足で、子どもたちは保育園や学校でのプールなしの日が多かったようです。しかし8月は夏本番、気温もぐっと高くなり、猛暑の日々が続きました。もうすぐ9月、体調管理に気をつけて、秋の訪れを待ちましょう。

トポス通信に詳細が掲載されているように、今年のNPファシリテーター研修・交流会は、トポスの会主催で開催されました。昨年より小規模ではありましたが、九州の佐賀や福岡からの実践報告もいただき、それぞれの分科会では熱心に課題を話し合いました。NPプログラムを何とかしてもっと普及したいという参加者の熱い思いに溢れた会だったと思います。

いまどきのスマホ育児は便利だけれど、結局は情報に振り回されて不安になりがちで、やっぱりNPプログラムのような場で、人と顔を合わせて話すことが、自分を取り戻し、前向きになれる鍵ですね。

相変わらず親による児童虐待は増え続けています。今年6月に児童福祉法が改正されて、「しつけのための体罰」が禁止されました。カナダの子育て支援を調査研究していた20年近く前、カナダでは親が子どもを叩くのは法律違反だと聞いて、進んでるなあと思ったものです。今は世界54か国で体罰禁止法が定められています。もちろん法律で禁止しただけでは問題は解決しません。世界で初めて体罰禁止法を定めたスウェーデンでは、そんな法律を実行したら、「きっと刑務所が親で溢れ返るさ」と揶揄されたそうですが、国を挙げてのキャンペーンで、叩かない子育てを普及し、今では虐待死を根絶したそうです。しかし体罰は根絶まではいかず、若干残る現実になお格闘が続いているとか。

最近マスコミでも子育てと体罰問題が取り上げられています。体罰に頼らない子育てをするには、孤立から救われ、本音で話ができて、支えあえる仲間を得られるNPプログラムは虐待予防として、きっと大きな役割を果たせると確信します。もはや手をこまねいているのではなく、どこから一歩を踏み出すか、具体的に企画し、行動することが求められていると思います。

なお、このたび、長年副理事長を務めていただいた櫃田紋子理事が退任され、菅野陽子理事が後任に就任されました。早速、新たな支援者向け講座開催を準備されるなど、お忙しいなか、積極的に動いてくださっています。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年6月16日(日)に総会が行われ、2018年度の事業報告、決算、2019年度の事業計画案、予算案などが報告、提案され可決されましたことをここにご報告致します。



## カナダ訪問記



◆19年2月から3月にかけて厳寒のトロント訪問の機会を得て3人で出かけました。

いくつかの施設訪問後、旧知の方々との再会も果たしました。現地の NP ファシリテーター T さん S さんの仲介で、オンタリオ州の NP コーディネーター・マリアさん、トレーナー・クリスティーナさんと面会して現地 NP 事情を伺いました。NP は保健省管轄で州ごとにコーディネーターがいて、3 カ月ごとに全国オンライン会議を行って各地の運営をバックアップしています。トロントでは保健師のファシリテーターが地域の関係団体提供の会場で団体のファシリテーターと組んで年1回以上プログラムを実施しています。ファシリテーターはオンラインに登録し閲覧、2年ごとに受ける2日間の研修も準備されています。カナダの行政は民間力を活用した運営が巧みですが、国によるネットワークに支えられて NP を全国展開するカナダと、日本の NP の立場の違いを痛感しています。（伊志嶺美津子）

◆初めてのカナダでしたが、厳しい寒さよりも驚いたのは人々のあたたかさでした。どこへ行っても「ミソコ！」と駆け寄り伊志嶺先生にハグし再会を喜び、初めて会った私も仲間の輪に引き入れてくださる、あたたかでオープンな人達。どこの国の出身であっても、自分の意見はしっかりと言い、他人の意見にも耳を傾けるカナダに住んでいる人達。ファシリテーションの国に来ているのだと強く感じました。訪問先の一つに Trinity-St.Pauls United Church がありました。そこではトロントに長く住む日本人の M さんが、わらべうたの会を開いていました。わらべうたによって会が進行され、懐かしい心地よい調べに包まれ日本にいてもなかなか経験できない素敵な時間でした。M さんは 1990 年半ばに異国の地カナダで様々な支援を受けながら初めての出産と育児をして、今はご自身がわらべうたの会によって駐在の子育て中の家族の大きな支えとなっています。M さんが子育て期に受けたプログラムの中に NP プログラムがあり、伊志嶺先生とはその頃からの長いお付き合いだそうです。今回の旅行で、時の流れも越え、カナダが大好きで NP プログラムに惚れ込んで日本に伝えてくださった先生達のこれまでのお働きにも少しだけ触れることができ、そのおかげで今、日本に NP プログラムがあることも強く感じたカナダ訪問でした。（大豆生田千夏）

◆旅の最後に二人でライアソン大学運営の Gerrard Resource Centre を再訪しました。センターは教会の一角にあり、子育て中の親子が誰でも立ち寄れる気軽な場所（ドロップイン）で、室内には手作りのあたたかな装飾が施されています。入り口には「こんにちは」を表す様々な国の言語が書かれています。この地域では約 50 パーセントの人々が国外で生まれ育った人たちで、自国の言葉が多様な言葉の中にあることで皆と一体感を感じ安心できるよう配慮されています。このような小さな配慮の積み重ねを通して「今いるあなたの存在そのものが大切、あなたにとって安心できる場所です」というメッセージが感じられました。

また、ここに集う親子を「参加者」と呼んでいます。日本のように利用者と言わず主体性を大切にしたい表現です。「多様性」を受け入れていくことが重んじられ、スタッフが迷った時は当事者の声を聴き一緒に考え、一人ひとりを大切にすることが重要と考えられているのです。サービスを提供する側が参加者のニーズを十分に理解することが、スタッフの専門性の向上にも繋がっていて、相互の関わりが互いの「エンパワメント」を生み出していました。施設内に、Safe Environment(安全な環境をつくる)、Empowerment(エンパワーする)、多様な人々の Participation(参加)、まさに ESP が息づいていて感銘を受けました。（木村弘美）





## 喪失体験をかかえる子どもたちへの「グリーフケア」

レインボウ・ジャパン 櫃田 紋子

レインボウ・プログラムを日本の子どもたちに初めて実施したのは2000年のことでした。その当時はグリーフやグリーフケアということばを耳にする機会は少なく、また関心度も今日のように高くありませんでした。そしてケアの対象は子どもではなく大人が中心のものでした。

グリーフ(Grief)は、喪失の悲しみ「悲嘆」を意味することばで、一般には大切な人を喪失することによる、心やからだ・行動や社会面にあらわれる悲嘆反応をさしますが、最近ではグリーフを死別だけではなく、その人にとって大切なものの喪失体験すべてに起こる反応として広くとらえる傾向があります。それは社会の変化とともにグリーフを引き起こす喪失体験が多様化、複雑化してきているからでしょう。したがってグリーフケアも多様になっているといえます。

レインボウ・プログラムは、喪失体験による「悲嘆」をかかえる子どもの心のケア・プログラムです。親の離婚や死別、虐待、社会的養護による離別、ひとり親、また災害や事故などによって、親しい人やもの・慣れ親しんだ環境など拠りどころとなる大切なものを喪失して苦しんでいる子どもたちが対象となります。それぞれ違った喪失体験であっても、体験の与える影響は共通しているからです。レインボウの創始者であるスージー・Y.マルタはグリーフについて、「私たちの人生に起こる意味のある喪失あるいは変化を生きぬこうとするための正常で自然な反応です」「もし子どもが愛することができる年齢になったら、悲しむことができる年齢になったということです。」そして、「人生には時どき、前もって準備したり自分の力ではコントロールすることも出来ないできごとに直面することがあります」「大人も子どもも、これらの危機的なできごとが自分のライフヒストリーの一部となるであろうことを理解する必要があります。子どもたちは、危機的なできごとによってどう対処するかを知るために私たちのサポートが必要なのです。」と述べています。

子どもはどんなに幼くても大人と同じように不安や複雑な気持ちを感じていますが、気持ちをことばにしたり伝えたり、サポートを求めるとすべがわからないために「悲嘆」のさなかになっても大人に気づいてもらえず、情緒的に不安定な状況におかれることが多いのです。レインボウは、子どもたちがファシリテーターによって守られた安心の場で、仲間同士で気持ちを交わし合い、気づきを共有しながら、「悲嘆のプロセス」をゆっくり歩んでゆけるように組み立てられた連続的なプログラムです。子どもたちはグループ体験を通して自分たちに起きたできごとについて年齢に相応しい理解をし、変化を受けいれつつ自ら前向きに生きていく力を育ててゆきます。

東日本大震災以降、「曖昧な喪失」(ポーリン・ボス)という考え方が注目されていますが、レインボウが対象としている子どもたちの多くは、まさに不確実で困難な「曖昧な喪失」の中にいるといえるでしょう。このようなストレスフルな状態が続くと、その負担から子どもたちが本来もっている自己回復の力を深刻に阻害してしまうといわれます。私たちは、子どもたちの人生に起こった辛い体験が将来に長く影響をおよぼさないようにするためには、日常的なサポートとともに枠組みをもったグリーフケア・プログラムを継続していくことが有効であると考えています。これからもレインボウがそうしたケアプログラムの一つとして、グリーフをかかえる子どもたちに役立つことができるよう努めていきたいとおもいます。

レインボウ・プログラムにご関心のある方、詳しく知りたいとおもわれる方は、どうぞ子ども家庭リソースセンターにお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

### レインボウ・ファシリテーター (A) & コーディネーター (B) 養成講座～喪失体験をかかえる子どもたちへの援助～

(A)2019/9/14(土)10:00～17:00 受講料10,000円 テキスト代5,000円

(修了後は、レインボウ・ファシリテーター有資格者となります。)

(B)2019/9/15(日)13:00～16:00 受講料5,000円 テキスト代2,000円

(受講対象は、レインボウ・ファシリテーター有資格者です。)

会場は全て横浜会場。定員は各 12 名。講師: 櫃田紋子/伊志嶺美津子 募集中 ※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

なお次回の予定は(A)2020/3/14(土)、(B)2020/3/15(日)。会場はCFRCです。





## 新しい出発によせて

聖愛乳児園園長、CFRC理事 森田雄司

私は、今年の3月まで児童養護施設子山ホームにおりました。様々な事情で親と共に暮らすことのできない子どもたちに、喪失体験をファシリテーターの力を借りながら子どもたち同士で乗り越えてゆくレインボウ・プログラムが、施設で暮らす子どもたちにも有効と考え、子山ホームに導入してから18年が経ちました。

現在、様々な工夫を重ね、親と暮らせない寂しさを乗り越えるプログラムと共に、施設を巣立つためには、人に頼り助け合うことの大切さを学び合う、レインボウを基礎にした自立へのプログラムの開発にも取り組み始めました。是非、これからも子山ホームの養育の柱として役立ってくれることを願っています。

そして、この4月から聖愛乳児園という同じ法人の乳児院に移動しました。同じ児童福祉施設なので、大丈夫だと高をくくっていました。しかし、その安易な気持ちはすぐに崩されました。一番驚いたのは、乳児院の生活が365日毎日同じ一日の繰り返しです。土・日曜日も、ましてや夏休みや正月もない。そんな生活は、土日には子どもたちが騒ぎ、夏休みにはキャンプや宿題に忙しい児童養護の世界では考えられないことでした。それは、はるか昔我が子を育てていた(奥さんからは何も手伝っていないと言われますが)頃を思い出させてくれます。最初は「おんぶ、だっこ」と言ってくる子どもに可愛くて応えていたものが、少しずつ苦痛になっている自分の男性としての非力さといつまでも変わらずに面倒を見ることのできる女性のすごさを改めて感じられる毎日です。

そして、4月に生後7日で入所した赤ちゃんが職員皆の力で、首が座り、ミルクを飲んで日に日にしっかりとできたり、視点があわなかったものが、だんだん目が合い笑う、そんな成長を見れることが、この仕事の喜びです。一方でそんな喜びを身近で見れない・見ようとしない実親の悲しみや身勝手さを考えると、この仕事の奥深さを感じます。そして、子どものしあわせを願い、次の里親や施設へ送り出すこの仕事は、まさに人間しか行わない、血の繋がらない子を我が子として大切に育てる原点であり、人がいる限り在らねばならない営みとして、乳児院は存在するであろうことに思いを寄せているこの頃です。

### ♪小山ホームの紹介♪

太平洋の潮の香りとオゾンに満ちた海を見下ろす丘の上に建っています。

創始者エーネ・パウラス先生の信仰を受け継ぎ、キリスト教精神に基づいた、自由と愛情の満ちたアットホームな環境の中で、子どもたちはすくすくと成長しています。

市川にて昭和24年創立、大原(現いすみ市)には昭和45年に移転しました。



### ★職員募集中★

子どもたちの一番大切な時期にかかわってみませんか。

お気軽にお問合せ下さい。

TEL 0470-62-2325





## 「児童虐待予防への一石として」

永田陽子

児童相談所における児童虐待相談対応数は約 16 万件(平成 30 年度)と年々増加の一途をたどっています。

DV 等で子どもに暴力行為をみせることが心理的虐待にされたことは、暴力の世代間伝達を予防するためにも大切です。また、例年、0 歳の虐待死事例や重傷事例数の割合が高い傾向を示しています。このことや低年齢の被虐待児が多い傾向からは、子育てを始めた早期のサポートの重要性が指摘されます。保護者の孤立予防、乳児保育の充実等の施策は出されましたが、現場での育児支援は、今ひとつ具体的でかつ容易な内容が必要と考えます。

他方、0 歳児は人に注目する力が生まれつき在ることがわかり、その力を誕生後の日々、人との体験で磨くこと“愛着”形成に重要です。

上記の2点を含む子育て家庭支援が、親子関係を深め、結果的に虐待予防となります。折しも、「児童虐待対策の鍵は予防」とのアメリカの取り組みが紹介(朝日新聞 DIGITAL, 2019/8/12)されています。

予防的な解決策のひとつが、日本に伝承されてきた乳児のかかわり方に心理学的意味づけをした『人育ち唄』です。この具体的で容易でありながら、乳児の愛着形成が可能な『人育ち唄』を子育て家庭支援者に習得して欲しいと願っています。乳児のかかわり方の伝達者が増えれば、育児を始めた多くの保護者が精神的に楽になり、愛着形成がたやすいと考えるからです。0歳児親子コミュニケーション研究会のメンバーは、毎年研修会を実施しています。

4 年前から始めた「0 歳児の愛着形成のためのコミュニケーションスキル」講座は年 2 回開催しています。この入門講座をスタートとして、0 歳児親子支援のスキルアップのために、昨年度より初級コースを、今年度より中級コースをスタートしました。

入門講座を 10 月 19 日(土)午前に、中級コースを秋(9 月 10 月)に実施します。皆さまのご参加をお待ちいたしております。申込みは本会 HP をご覧ください。今年度の初級コースは 6 月 7 月に修了いたしました。

なお、0 歳児支援に関しては、「0 歳児支援・保育革命1」および「0 歳児支援・保育革命2」(永田陽子著 ななみ書房)が参考になります。CFRCにて取り扱っていますので、ご希望の方はお申し込み下さい。

また、0 歳児の研修会も予定しています。



### \*「0 歳児の愛着を育てるコミュニケーションスキル講座」

10 月 19 日(土)9 時 45 分～12 時 30 分 参加費 3000 円

### \*「0 歳児支援者スキルアップ中級編」

9 月 29 日(日)9 時 45 分～16 時半 10 月 19 日(土)14 時～16 時半

★共に会場は北とぴあになります。詳しくはCFRCのホームページをご参照ください。





## 2019 全国 NP ファシリテーター交流・研修会をふりかえって・・・

各分科会のファシリテーター役を担当したトレーナーの方々より

★交流会に関しての件ですが、NP 事業の将来を切り開くために、トボスの会が危機感をもって取り組んで下さることは、本当にありがたいと思っています。これまで CFRC としても危機感がありながら、なかなか具体的な動きが作り出せなかったところ、トボスの皆様が率先して動いて下さいました。

CFRCには機動力が不足していますので、トボスの会に助けられて、ご一緒にこれからの NP 事業を創造していけるのではないかと考えます。お互いの強みを生かして、役割分担しながら、交流・研修会はぜひ継続して開催していきましょう。先日の交流会で出された意見やアイデアを、どのように形にしていけるか、協議の機会を作りませんか。ひとつでも形にしていけることで、なにか新しい道が開けるような気がします。（福川須美）

★準備、運営についてご尽力いただいた皆様、ありがとうございました。小規模、短時間ながら充実した会になったと思います。NP への思いや取り組みもグループのテーマが違っても、底に流れるものは共通していると感じました。年 1 回、地方からも参加していただくには、できれば一日フルの開催もいいかと思いました。いただいた提案などをどう実現していくか、協議の必要もありますね。来年に向けて一歩でも進められれば、年 1 回の開催にも大きな意味があると思います。日ごろコンタクトの無いファシリテーターともつながる機会になればと期待し、実行できればと思います。担当した分科会の報告を簡単に記載します。

☆第 2 分科会「参加者へのアプローチ」参加者・・・大学教員、ひろば担当者など 9 名

みやき町の話を中心にした活発な話し合いと意見交換を行った。8 年前に企画書に目を止めてくれた社協が後押し、以来 180 名が NP に参加。ロコミで応募者は多く人口も増加しているとのこと。以下が話題となった。

\*再度プログラムに参加したい希望が多い。そのためのプログラムがあってもいいのでは。

\*若い親とのギャップを感じる。コミュニケーションが単語であったり思いを言葉に出すまでに時間がかかる。ファシリテーターも歩み寄る必要を感じる。

\*新しい親への誘いが難しい。6 回はハードルが高い。模擬で 3 回実施したが、やはり 6 回の効果は大きい。チラシの効果は低くネットに参加者の体験・感想を出して人が集まった。ロコミ・参加者の声は効果あり。

\*ファシリテーター同士すぐに意見交換できる場、NP 実施情報も入れて SNS を立ち上げたらどうか。（伊志嶺）

★1、とても意味のあるよい会でした。継続することが第一かと。

2、王子だけでなく地方と交互にできるとよいですね。

3、共催というか、共働してるようですが、きちんと予算を組んでいく事業かと（トボスとリソースセンター）

4、トボスの会のような組織がもっと増えるとよいのですが、まずはキーマンを探すことか

5、CCCと組んで実践中の方と隣席し、NPにかかわる本質的な提言がありました。

6、テーマの決め方やグループ編成など、もう少し細分化してもよいのかと。時間が難しいですね。

皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。（櫃田）

★真摯に NP に取り組んでいるからこそその迷いや疑問、大切にしていることなどについて、活発な意見交換がなされ、学ぶことの多い時間でした。地方からの参加者が、こんな時どうしようと思う事や、確認したいことなどが実践の中で出てくるので、月に一度、このようなファシリテーター同士の交流会ができたかと話されて、SNS ではない対話の力を感じました。企画・準備・開催にご尽力くださった実行委員の皆様感謝いたします。（石川）

★とても良い会を主催していただき、ありがとうございました。トボスの皆様の NP への熱い思いが、多くの人を温かく迎え入れ、多様な考えを共有し参加者が元気になる、ファシリテーションの場をつくりだしていると感じました。

トボスの会の皆さんの力で、昨年交流会から、まさに更に一歩を踏み出したとかんじています。

この歩みをどう継続していくか、交流会で出たたくさんの可能性の芽をどう育てていくか、私たち皆の大きな課題で、これからも一緒に動いていけると嬉しいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。（大豆生田）

## 「Information」 子ども家庭リソースセンター（CFRC）からのお知らせ



### ★Nobody's(ノーバディズ) Perfect(パーフェクト)(NP)プログラム体験講座

NPの考え方が生まれたカナダの背景、NPを理解するためのミニ体験講座。NPの内容を知りたい方たち向けに適切な講座です。定例的に年4回(各3時間)実施。内容はどの回も同じです。

【内容】(1)NPプログラムの理念と精神、人間観・価値観 (2)NPプログラムが、なぜ、今、子育て支援が現場で必要なのか (3)NPプログラムの体験ワーク(実習)

【時間】13:00～16:00 【会場】当センター事務所【定員】各20名 【受講料】2,500円(テキスト代500円含)

(開催日程表) ※お申込みは開講1～3か月前に当センター事務局まで。担当は変更になる場合がございます。

#### 2019年度

	講座日程	担当(予定)	状況
第3回	2019/9/29(日)	福川 須美	募集中
第4回	2020/1/19(日)	渡邊 暢子	募集中

### ★NPファシリテーター養成講座(4日間) — NPプログラム実践者資格取得の為に必要な講座 —

(開催日程表) ※お申込みは開講1～3か月前に当センター事務局まで。

#### 2019年度

	講座日程	担当(予定)	状況
第3期	2019/11/1(金),2(土),3(日祝),4(月振替休日)於:王子	永田 陽子	募集中
第4期	2020/2/15(土),16(日),22(土),23(日)於:王子	櫃田 紋子 渡邊暢子	募集中

【時間】1・2日目 9:30～16:30 3・4日目 9:30～17:00 【定員】各12名

【会場】当センター事務所

【受講料】70,000円 (テキスト代2,000円および教材費は別。資格申請料10,000円別。)

### ★NPアフター講座(年3回) 対象:NPファシリテーター養成講座を修了されたすべての方

ファシリテーター資格にふさわしい技能や資質を維持し、NPプログラムに参加される方々に最良のプログラムを届ける為に必須の研修の機会です。プログラムの質の維持の為に少なくとも3年に1回は受講ください。

#### (1)フォローアップ研修

養成講座終了後2年以内にプログラムの実施ができなかった方が対象です。

【日程】2019/9/8(日)募集中、2020/2/9(日)募集中

【時間】各日共通9:30～12:30(3時間) 【受講料】各日3,000円 【定員】各20名

#### (2)ステップアップ研修

プログラムの実施済みの方が、技能をさらに向上させるための研修です。プログラム実施に当たって困ったことや課題を持ち寄って、トレーナーとともに学びあって課題解決を図り、それぞれのステップアップを目指します。

【日程】2019/9/8(日)募集中、2020/2/9(日)募集中

【時間】各日共通13:30～16:30(3時間) 【受講料】各日3,000円 【定員】各20名





★2019年度支援者対象研修 “0歳児の愛着を育てる「コミュニケーションスキル」講座”

2019年10月19日(土) 9:45～12:30 北とぴあ(東京都北区王子)にて開催いたします。

※子育て支援者、保育士、幼稚園教諭、愛着形成に興味のある方が対象です。

★2019年度支援者対象研修 中級研修 0歳児親子コミュニケーション【人育ち唄】支援者スキルアップ  
“{人育ち唄}活用力を磨こう”

第1回・第2回 2019年9月29日(日) 9:45～16:30 / 第3回 10月19日(土) 14:00～16:30

北とぴあ(東京都北区王子)にて開催いたします。

※本センター主催の“0歳児の愛着を育てる「コミュニケーションスキル」講座”及び“人育ち唄 初級「0歳児の観察研修」”を受講した方が対象です。

★子どもに関わる仕事に従事している方のための ～グループスーパービジョン形式による～持ち寄り事例検討会

(5回シリーズ) 経験豊かな臨床心理士と保育の専門家の講師陣がファシリテーターとして、またスーパーバイザーとしての役割も兼ねながら一緒に参加します。クローズされたグループで守秘を大切にします。

◎第1回から5回の開催日:9月20日、10月25日、11月22日、1月24日、2月21日(全金曜日)

・時間 18:00～20:00 ・定員 12名

・会場は子ども家庭リソースセンター事務所にて ・講師は回によって変わります。

◎受講料:10,000円、NPの会会員は9,000円(5回分一括払い)

◎原則5回すべての参加が望ましいです。詳しくはCFRCのホームページをご覧ください。

★レインボウ・ファシリテーター(A) & コーディネーター(B) 養成講座～喪失体験をかかえる子どもたちへの援助～

(A) 2019/9/14(土)10:00～17:00 受講料10,000円テキスト代5,000円

(修了後は、レインボウ・ファシリテーター有資格者となります。)

(B) 2019/9/15(日)13:00～16:00 受講料5,000円テキスト代2,000円

(受講対象は、レインボウ・ファシリテーター有資格者です。)

定員は各12名。講師:櫃田紋子/伊志嶺美津子 ※会場は全て横浜会場。

なお次回の予定は(A)2020/3/14(土)、(B)2020/3/15(日)。会場はCFRCです。

●トポスの会(自主的なファシリテーターの学びの会)

9月8日(日)13:00～16:00 北区スペースゆう5階多目的室Aにて テーマ「FAはどこまで介入していいか」

当センターのNPファシリテーター養成講座修了者は、どなたでも参加できます。(当日会費会員300円、非会員500円)。トポスの会に関するお問い合わせは、CFRC事務局まで。トポスの会のホームページが開設されました。「トポスの会 NPグループ」で検索下さい。

●寄付金のお願い ～ ご質問、お問い合わせ等は、下記のCFRC事務局まで ～

【寄付金お振り込み先】 ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00130-4-651522

加入者名:NPO子ども家庭リソースセンター

●ボランティア

NPの会会員の皆さんに、NP養成講座のコ・ファシリテーター役、親役、プログラム実施に役立つ運営スタッフなどのボランティアを募集させていただく機会があります。事務局よりお声がけいたします。

ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

NPO法人子ども家庭リソースセンター(略称:CFRC)

○所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1階 ○Tel&Fax 03-6755-2855

○E-mail [info@kodomokatei.com](mailto:info@kodomokatei.com) ○URL <http://kodomokatei.com/>

○交通機関 JR線王子駅北口改札から徒歩8分 地下鉄南北線王寺駅5番出口から徒歩7分

編集後記 お便り編集はやってみるとなかなかしんどい、肩を揉んでいます。でも、今回も内容は充実していると思います。ご愛読下さい。斉藤まり子

編集・発行 NPO法人子ども家庭リソースセンター 発行日:2019年9月1日

